

## 第70回（令和5年度）矢野賞受賞者の概要

いたの じゅんや  
**板野 純也** (39歳)

岡山市北区下足守



### 経営内容：野菜 (メロン 56a、花き 14a)

専門学校を卒業後、民間企業で営業職として勤務した後、平成20年にメロンと花きを生産する実家に就農した。就農後は、足守メロンのブランド力向上に尽力、営業経験や人脈を生かした販路開拓等により経営安定を実現している。

作業の省力化や新技術の導入に積極的で、民間企業と共同開発した害虫防除技術を地域へ波及させるなど、産地の技術導入・普及の拠点として活躍している。

青年農業者クラブ活動では、単位クラブや地方協議会、県協議会の役員を歴任、多くの活動を成功に導いてきた。

地域では、小中学生への食農教育、一般消費者に対する農業への理解醸成へ熱心に取り組むだけでなく、農業の魅力を全国へ発信するなど産地活性化に貢献している。

やました かずま  
**山下 和磨** (39歳)

岡山市東区瀬戸町



### 経営内容：水稲 (米麦 16ha、黒大豆 1ha、キャベツ 0.8ha)

学校を卒業後、民間企業勤務を経て、平成26年、新規に就農した。就農後は、エンダイブ中心の経営から米麦への転換、業務用キャベツの導入など、経営リスクの分散や経営資源の有効活用を実現している。

地域の仲間との共同作業体制を確立し、農繁期の労働不足を解消した。特にドローン防除の作業受託は、収益確保に繋がると同時に地域農業の維持にも寄与している。

青年農業者クラブ活動では、活動を休止していた地元クラブを自らの手で再開させ初代会長に就任するなど、若手農業者を力強く牽引している。

地域では、子供達への食農教育等に積極的に参加するとともに、地域農業の中心経営体として農地の保全や農業振興に尽力している。

はしもと あきひろ  
**橋本 彰宏** (36歳)

赤磐市立川



### 経営内容：野菜 (キャベツ 15ha、水稲 15ha)

高校を卒業後、民間企業勤務を経て、平成26年、新規に就農した。就農後、地域でいち早く契約キャベツ栽培を開始、数年で県内有数の栽培規模に拡大している。

250筆以上あるほ場を管理するため、クラウドを活用した栽培データの管理、底面給水育苗の導入、GAPの実践など効率化と省力化を進めるとともに、市場ニーズに対応するため、栽培の難しい端境期の作型を導入するなど、大規模水田利用野菜経営のモデルとして注目されている。

青年農業者クラブでは、役員としてプロジェクト活動を盛り上げるなど活躍している。

地域では、条件不利地も含めた農地の借受や、水利組合の活動に尽力するなど、卓越した行動力で産地の活性化に大きく貢献している。